

NAS、NAE、及びIOM、ポストドクプログラムの大幅改革の必要性を提唱（12月10日）

米国アカデミー（National Academies）傘下の米国科学アカデミー（National Academy of Sciences : NAS）、米国工学アカデミー（National Academy of Engineering : NAE）、及び医学研究所（Institute of Medicine : IOM）は、米国におけるポストドクプログラムを再検証した報告書「ポストドク体験再検証（The Postdoctoral Experience Revisited）」を発表した。本報告書は、米国アカデミーが2000年に発表した報告書「科学者・エンジニアのポストドク体験強化（Enhancing the Postdoctoral Experience for Scientists and Engineers）」を基に作成されたもので、同報告書において改革が提唱されたシステムに関し、その後の進捗状況などを再検証している。

今回発表された報告書は、米国におけるポストドク研修システムは研修・メンタリングを中心として大幅な改革が必要であると主張している他、ポストドク研究者の給与に関しても、研修の価値や研究に対する貢献をより正確に反映して増額するべきとしている。また、大学院生に対し、博士号取得後のキャリアとしてポストドク研究者となることを既定路線と考えずに、科学分野における幅広いキャリア機会を考慮すべきと奨励している。

なお、本報告書は、<http://www.nap.edu/openbook.php?record_id=18982&page=R1>から閲覧可能。

The National Academies, Report Urges Significant Reforms to Improve the Training and Salary of Postdoctoral Researchers

<http://www8.nationalacademies.org/onpinews/newsitem.aspx?RecordID=18982>